

研究種目：基盤研究 (B)
研究期間：2006 ～ 2009
課題番号：18390599
研究課題名 (和文) カンボジアにおける母子健康手帳を用いた妊婦登録システムの開発とその効果測定
研究課題名 (英文) Development of Pregnancy Registration System Using the Maternal and Child Health Handbook in Cambodia and Its Effectiveness Evaluation
研究代表者
柳澤 理子 (YANAGISAWA SATOKO)
信州大学・医学部・教授
研究者番号：30310618

研究分野：国際看護学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：母子保健, 母子健康手帳, Skilled Birth Attendants, 妊産婦死亡, カンボジア, 介入研究, 妊婦登録, 出生登録

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、(1)文化社会特性に適したカンボジア版母子健康手帳及びその運用システムの開発、および(2)母子健康手帳を用いた妊婦登録システムを導入し、妊婦健診受診回数および skilled birth attendant (SBA) による分娩介助率に対する効果を測定することである。

分娩前後の期間は、母児の予防可能な死亡が集中する時期であり、全世界の妊産婦死亡の約 50%、新生児死亡の 37%がこの時期に起こると推定されている。しかし同時にこの時期は、多くの分娩が家庭で行われ、また届出や登録制度が整わない開発途上国においては、最も保健情報が把握しにくい時期である。

本研究は、この情報のギャップを母子健康手帳を用いて埋めるとともに、妊婦を早期に把握することで、妊婦健診受診率や SBA による分娩率の向上を目指している。

本研究は、次の 2 段階で実施する。【第 1 段階】カンボジア版母子健康手帳、およびその運用システムの開発、【第 2 段階】母子健康手帳を用いた妊婦登録システムを導入し、介入地域と対照地域との間で、妊婦健診、SBA による分娩、母親の保健知識などのアウトカムを比較する。

2. 研究の進捗状況

本研究は、4 年計画のうち 3 年を終了した。これまでの成果は以下の通りである。

(1) カンボジア版母子健康手帳の開発

カンボジア版母子健康手帳を試作し、絵

や文章の文化的適切性についてフィールド・テストを実施、改定し、介入地域に導入した。

(2) 妊婦登録システムの開発

既存の報告システム (出生、死亡、健診など) に修正を加え、妊婦健診受診者を記録するシステムを作成した。

(3) 介入前調査

介入地域および対照地域を選定し、手帳導入前調査を実施した。対象は、調査時点より 1 年以内に出産した女性で、2 段階集落抽出法を用いて、介入地域 2、対照地域 2 の 4 地域から各 160 人、計 640 人を抽出した。妊婦健診受診、分娩場所と介助者、子供の感染症・栄養・予防接種等に関する保健知識、などを調査し結果を報告書としてまとめた。

(4) Wealth Index の作成

調査結果を用い、経済状態を評価するための Wealth Index (家財所有などを点数化するもの) を、主成分分析を用いて作成した。

(5) 介入地域の保健医療関係者の研修と手帳の導入

介入地域の①看護師、助産師、②保健ボランティアに対し、手帳の役割と使用方法についてそれぞれ研修を行った。手帳を導入し半年後に、追加研修を行った。

(6) モニタリングと導入初期評価

手帳導入地域において、月 1 回の運用モニタリングを継続している。また導入に伴う文化的倫理的問題が生じていないか確認するため、母親と看護師・助産師を

- 対象に、面接調査を実施した。
- (7) 母子健康手帳ワークショップの開催
カンボジアにおいて、保健省、県保健局、実施地域の保健医療職、援助機関などを招いて、ワークショップを実施、母子健康手帳導入の中間報告を行った。
 - (8) 母子手帳国際会議への関係者の参加
東京で行われた第6回母子手帳国際会議に、カンボジアから5名（本研究関連は4名）の参加者を送り、カンボジアでの手帳導入について報告した。

3. 現在までの達成度

- ② おおむね順調に進展している。
(理由)

手帳開発に予定より時間がかかり、導入が当初予定より4か月ほど遅れた。しかし、導入後の経過は順調で、最終年度である本年度に、介入後調査を実施する予定である。

また、介入地域だけでなく、本研究の意義と成果をカンボジア国内に知らせ、保健省関係者にアピールするため、当初予定にはなかったカンボジア国内での母子健康手帳ワークショップを実施した。

さらに、日本で実施された第6回母子手帳国際会議にカンボジアにおける研究協力者を招き、成果を発表することができた。

4. 今後の研究の推進方策

本年度は研究最終年にあたるため、介入地域および対照地域において、介入後調査を実施する予定である。本調査については、既にカンボジアの研究協力者と調整済みである。

結果をカンボジアで入力、一次分析（単純集計）し、日本にデータを持ち帰って二次分析（アウトカム評価）を行う。

また本年度中に、複数の学会等において成果発表を予定している。

最終報告書を作成し、日本国内およびカンボジア国内で公表、カンボジア政府にも提出する。

研究後の母子健康手帳運用については、NGOに引き継ぐことを検討している。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 11 件)

- ① Yanagisawa S, Wakai S. Professional healthcare use for life-threatening obstetric conditions. *Journal of Obstetrics and Gynaecology*. 2008, 28, 713-719. 査読有。
- ② Yanagisawa S. Barriers to health of Cambodian women who experienced life-threatening obstetric conditions. *Journal of International Health*. 2007,

22, 191-192. 査読有。

[学会発表] (計 9 件)

- ① Hang V. Initial evaluation of the maternal and child health handbook Cambodia. The 6th International Conference on Maternal and Child Health Handbook. 2008. 11.9. 東京。
- ② Yanagisawa S. Qualitative evaluation of the Cambodian version of MCH handbook. Workshop on MCH Handbook. 2008.9.18. Cambodia.
- ③ Los Reyes C, Nakamura Y. Ensuring the quality of health care among mothers and children: Maternal and child health handbook movement in Southeast Asia. 2007.11.7-9. Dublin.

[図書] (計 1 件)

- ① Sophal O et al. Baseline Survey: Memot & Ponhea Krek-Dambe Districts, Kompong Cham Province, 2007. School of Health Sciences, Phnom Penh, Cambodia. 2007. Pp 1-51.